

算数の文章題が出来ない理由

私が指導主事を務めてみた頃、小学校の先生方から聞いた最大の悩みの一つに、「算数の文章題」があった。「問題の文章を読んで式を立てることが出来ない」といふのである。計算は出来るのだが、式を立てることが出来ない子供が多いのである。

ところが、昭和二十八年、私が一年生を指導してみると、子供たちは「計算問題よりも文章題の方が面白い」といふのである。事実、計算問題よりも文章題の方が正答率が良いのである。だから、指導主事時代に先生方から聞いた悩みは、一部のもので、それも誇張されたものだったのかと思った程である。然し、これは、私が漢字を多く使った文章題を出してみたからであったといふ事が、昭和三十一年から文部省方式で一年生を指導してみても解った。

つまり、「かな書きの文章題」では、全く式の立てられない子供が多いのである。そこで、かなばかりで書かれた文章は、文意を汲み取るのが大変に難しく、そのため、国語で読解指導をする必要があるのだといふ事を、理解することが出来た。ちゃんとした「漢字かな混り文」なら、読めば即座に理解できるのが普通であって、殊更“読解指導”などする必要が無いのである。いや、読解指導など無い方が良いのである。

数年前、「人間形成と国語教育」といふテーマで四人の先生方と座談

会をした時、東京学芸大学国語教育学会の饗場一雄先生がこんな事を発言してゐた。「ある学校で、全校を読解指導を重視する“精読組”と、多読を重視する“多読組”とに分けて指導したところ、国語学力テストの結果は、語彙力も読書力においても多読組の方がずっと良い、といふ結果が出た」と。

私もその時、即座に賛意を表し、「読解指導などどんなにうまくした所で、子供には退屈でしかない。時間の浪費である。子供は、説明してもらはなくても、それぞれの能力に応じて何かを吸収する。立派な作品を多く与へることだ」と述べた。然し、それは「かなばかりで書かれた文章」ではなくて、ちゃんとした「漢字かな混り文」として与へなければいけないことは言ふまでも無い。